

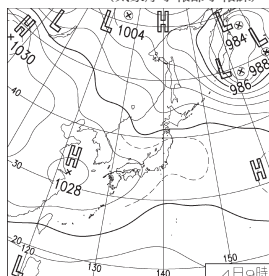
日々の天気図

— No. 106

2010年11月

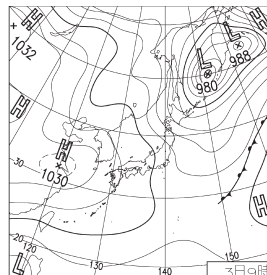
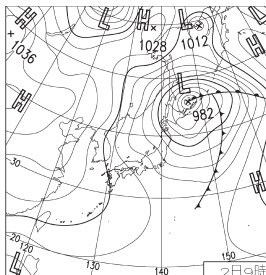
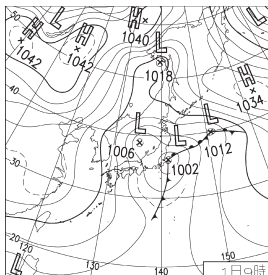
- 10日、北日本は強い冬型となり、北海道えりも岬で最大瞬間風速40.2 m/sを記録。
- 12日～13日、西～東日本を中心とした広い範囲で黄砂を観測。
- 30日、活発な前線の影響により、鹿児島県奄美市笠立で87.5 mm/1hの大雨。

(気象庁予報部予報課)



1日(月) 広範囲で雨

関東南岸を通過した低気圧の影響で東海～関東を中心に雨や雷、非常に激しい雨の所も。静岡県浜松で58 mm/1h、午後は日本海の低気圧の影響で西～北日本日本海側で雨や雷。



2日(火) 冬型の気圧配置に

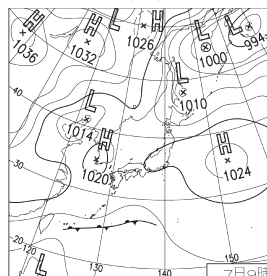
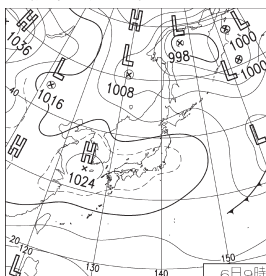
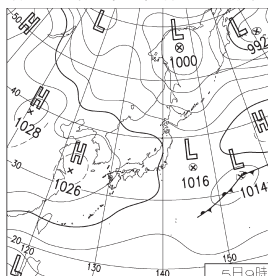
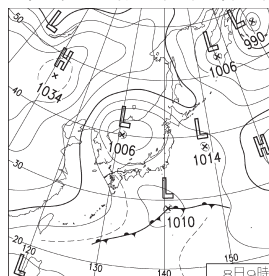
オホーツク海で低気圧が発達。冬型の気圧配置に。東～北日本日本海側を中心に大荒れ。北海道えりも岬で最大瞬間風速31.3 m/s。太平洋側では晴れ間が広がる。

3日(水) 北日本で冬型続く

北日本中心に西高東低の気圧配置。北陸から北海道の日本海側で冷たい雨。東北太平洋側や関東以西は冬型の気圧配置が緩み高気圧に覆われて文化の日らしく晴れ。

4日(木) 西～東日本で冷える

北日本は日本海側で雨や曇り、太平洋側では晴れ。西～東日本では帯状の高気圧に覆われ概ね晴れたが、関東では気圧の谷の影響で午前中曇り、一部で雨も。長野市で初霜、初水。



5日(金) 関東も天気回復

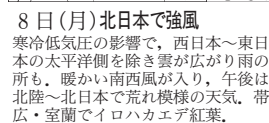
北陸や北日本では寒気の影響で雨や雷雨。西日本～東日本太平洋側は、高気圧に覆われ爽やかな秋晴れが広がる。南西諸島では、高気圧の縁辺となり曇りや雨。宇都宮で初霜。

6日(土) 爽やかな晴れ

帯状の高気圧に覆われて西～東日本は晴れ。放射冷却により明け方は冷え込む。高気圧の縁辺にあたる南西諸島や気圧の谷が通過した東北や北海道の一部で曇りや雨。

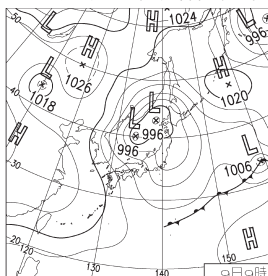
7日(日) 天気は西から下り坂

西日本～東日本の日本海側や北日本で晴れて、朝方内陸では冷え込む。高気圧は東海上に過ぎかけたため、太平洋側では曇りや雨、雨の所も。南西諸島では前線の影響で雨。



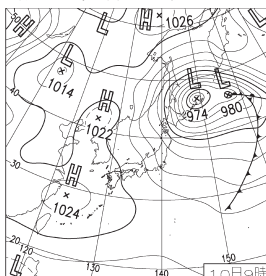
8日(月) 北日本で強風

寒冷低気圧の影響で、西日本～東日本の太平洋側を除き曇りが広がる雨の所も。暖かい南西風が入り、午後は北陸～北日本で荒れ模様。帯広・室蘭でイロハカエデ紅葉。



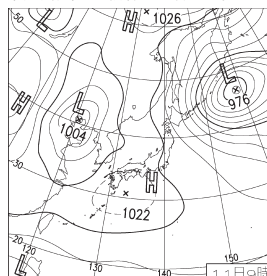
9日(火) 全国的に風強まる

低気圧が発達しながら北海道を通過。西日本は冬型で、東～北日本は低気圧による強風。関東ではフェーンとなり気温が20℃を超えた。最小湿度は東京等で11月の極値を更新。



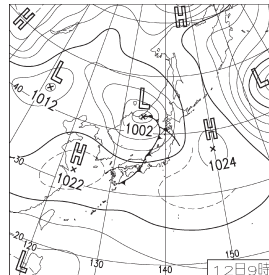
10日(水) 北日本で暴風

オホーツク海の低気圧が急速に発達。北日本は強い冬型に、日本海側で雨や雷雨が続き、新潟県長岡市栃尾で103 mm/日、北海道えりも岬で最大瞬間風速40.2 m/s、甲府で初霜・初水。



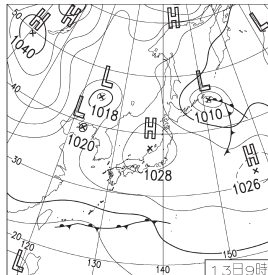
11日(木) 冬型の気圧配置緩む

寒気の影響を受けた北日本を除き概ね晴れ、風は次第におさまる。本州や北海道の内陸部では放射冷却により最低気温が氷点下。奈良・京都・京都府舞鶴・水戸で初霜。



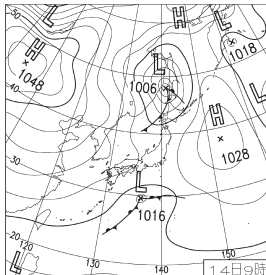
12日(金) 5年ぶり11月に黄砂

低気圧が北日本に接近。寒冷前線の影響で北日本を中心に雨や雷、強風となった所も。国内36都府県で黄砂観測。最小視程4 km。東京では1967年以来初。



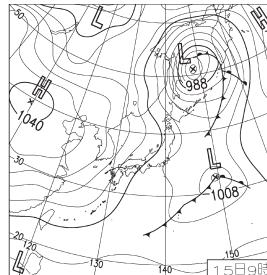
13日(土) 高気圧が北に偏る

高気圧の勢力が弱く北に偏り北日本の一部を除き曇りが広がる。南西諸島では前線の影響で雨。那覇市樋川では58 mm/1hの非常に激しい雨。昨日に続き国内で黄砂観測。



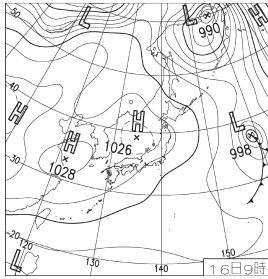
14日(日) 暖かな晩秋

朝の最低気温は全国的に高く、10月中～下旬の暖かさ。北海道で前線の通過時に雨。その他は曇りが多く太平洋側で一時雨もあったが、午後は晴れ間も。黄砂は西～東日本で観測。

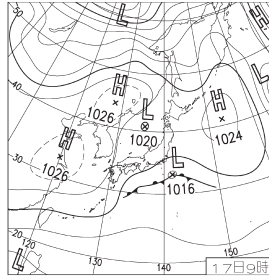


15日(月) 一転、冬の空気に

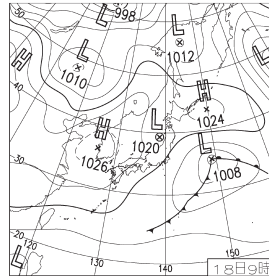
強い寒気が流入。北日本やその他日本海側の地域は、未明に最高気温となるなど日中も昇温せず。雪や冷たい雨が続き、西～東日本も夕方以降急速に冷え込む。秋田・盛岡で初雪。



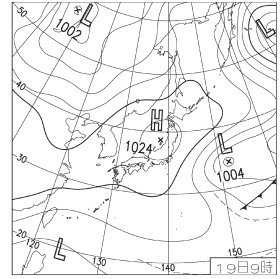
16日(火)寒い一日
 冬型の気圧配置が次第に緩み概ね晴れたが、北日本は寒気の影響で曇り。最低気温・最高気温は全国的に平年より低く、11月下旬～12月中旬並。札幌で今季初めての冬日。



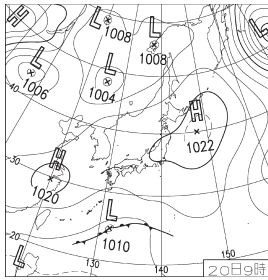
17日(水)関東は冷たい雨
 明け方冷え込み、東北の秋田、仙台で初霜、青森で初氷。本州の南岸沿いを低気圧が東進。九州～関東で雨。関東は日中の最高気温が10°C以下と真冬並。



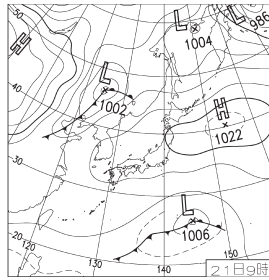
18日(木)本州は不安定な天気
 寒気を伴った低気圧が本州上を東進、近畿～東北の所々、不安定により雨。先島諸島は湿った空気の流入で雨の所も。北海道は晴れ、最低気温は12月上旬並の冷え込み。熊本で初霜。



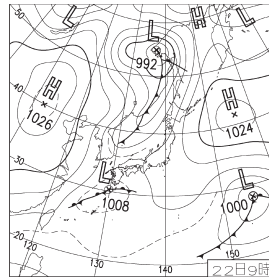
19日(金)先島諸島で猛烈な雨
 南西諸島は曇りや雨。九州南部と北日本の一部は曇り。その他は概ね晴れ。沖縄県多良間空港で145.5 mm/1hの猛烈な雨。名古屋、新潟等で初霜。福島で初氷。



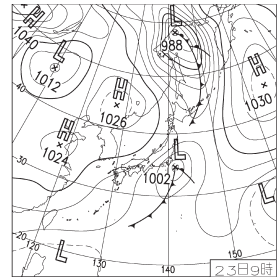
20日(土)暖かな行楽日和
 北日本では、寒気の影響で所々雲が広がる。全国的には高気圧に覆われて広く晴れて行楽日和。最高気温は10月下旬～11月中旬並。沖縄・奄美も天気回復。



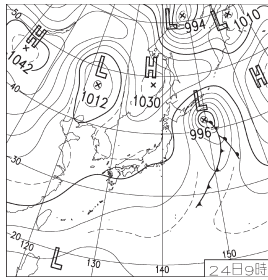
21日(日)全国的に晴天
 高気圧に覆われ全国的に晴れ。南から湿った空気が流れ込んだ四国から関東の太平洋側の一部で雨や曇り。最高気温は平年より高く、北日本は10月中～下旬並。



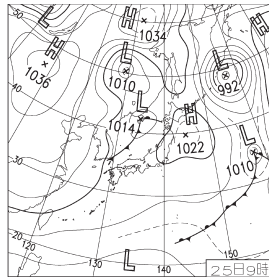
22日(月)雨域 全国に広がる
 東シナ海で発生した低気圧が日本の南岸を東進。北日本も前線の通過で全国的に雨。朝の冷え込みが緩み、各地で朝の最低気温が10月中旬～11月上旬並。



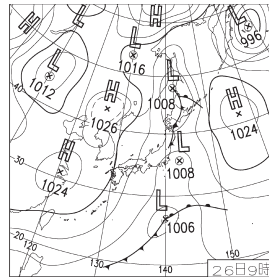
23日(火)南岸低気圧
 関東南岸を低気圧が北東進。東日本～東北で雨。新島で44 mm/1hを観測。西日本から高気圧に覆われ天気回復したが、関東では沿岸部に気圧の谷が残って曇りが取れず。



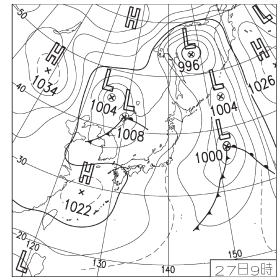
24日(水)仙台で初氷
 北海道のオホーツク海側と東北、近畿の日本海側では下層雲に覆われ曇り。その他は概ね晴れ。朝の最低気温は平年より若干高めであったが、最高気温は全国的にほぼ平年並。



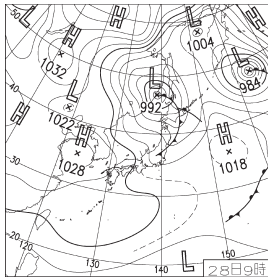
25日(木)天気 次第に下り坂
 本州付近は昼頃まで晴れたが、低気圧や前線が接近により曇りが広がり、夜には雨の所も。沖縄は気圧の谷の影響で雨。北日本内陸部は朝冷え込み、宮城県では1月並の最低気温に。



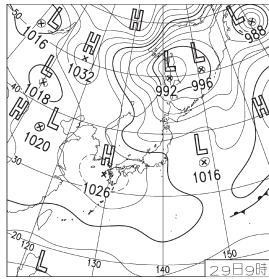
26日(金)日本海側で雨
 高気圧が西から張り出し、西～東日本の太平洋側を中心に晴れたが、西日本の日本海側から北日本では、寒気や前線の影響で雨や曇り。東京でイチョウ黄葉。



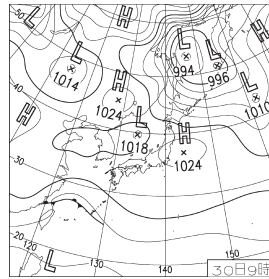
27日(土)小春日和
 日中は高気圧に覆われ、全国的に晴れて穏やか。九州を中心に明け方冷え込み、長崎等で初霜、初氷。日本海の低気圧が発達しながら北日本に接近。夜には強風が吹き始める。



28日(日)北海道は大荒れ
 日本海北部の低気圧が発達。北海道では寒気が流入し、暴風を伴う雨や雪。東日本の太平洋側では概ね晴れ。南西諸島から西日本は、晴れた所もあるが、寒気の影響で曇りが広がる。



29日(月)日本付近、冬型続く
 列島は冬の天気分布で日本海側は雪や雨、太平洋側は晴れ。西日本から初霜や初氷の便り。北海道石狩市浜益で最大瞬間風速35.5 m/s。09時に稚内市上空約5100 mで-41.9°C。

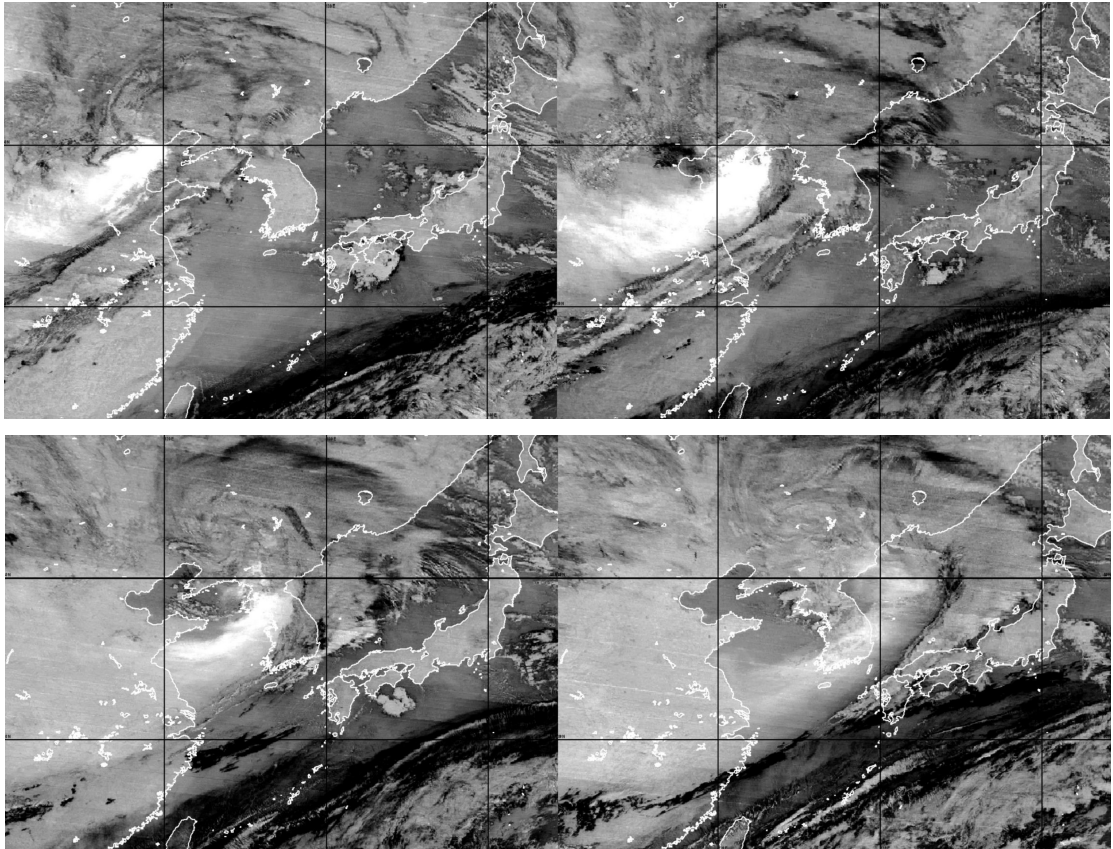


30日(火)奄美で猛烈な雨
 北日本や日本海側の降雪は日中おさまったが、日本海の低気圧が接近し、夜には東北で再び雪や雨。奄美は活発な前線の影響で大雨。鹿児島県奄美市笠利で87.5 mm/1h。



今月のひまわり画像—2010年11月

珍しい秋の黄砂



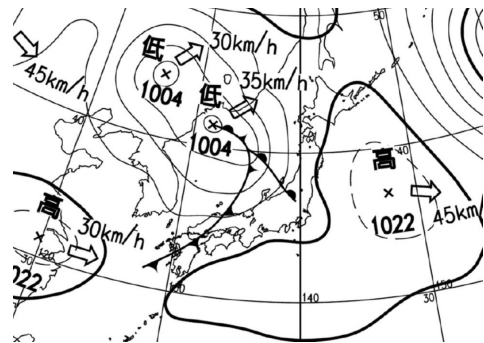
第1図 11日09時～12日03時の6時間毎の赤外差分画像（左上:09時，右上:15時，左下:21時，右下:03時）。

2010年11月，この時期にしては珍しく衛星画像で大規模な黄砂が確認された。

第1図は11日09時～12日03時（日本時間）の6時間毎の赤外差分画像（赤外1画像と赤外2画像の輝度温度の差の画像）で，中国大陸から日本海へ移動する白く輝く領域がひまわりで観測された黄砂である。

2008年5月号の本稿でも黄砂について取り上げたが，黄砂の月別観測日数（目視観測を行っている日本の61地点のいずれかで黄砂が観測された日数の1971～2000年の30年間平均）は4月が7.3日と最も多く，3月が5.3日，5月が3.3日と続いており，黄砂の季節感としては春となる。11月は0.3日と非常に少なく，今回観測された11月の黄砂は，西日本では2005年以来5年ぶり，東京大手町では秋（9～11月）としては観測記録が残っている1967年以降初めてとなった。

この黄砂は前線を伴った低気圧が発達しながら日本



第2図 12日03時の地上天気図。

海を東北東進したのに伴い（第2図），九州から東北地方にかけての36都府県の広い範囲で観測された。

（気象庁予報部予報課 西村修司）